

# 簡易版批判的思考技能尺度の開発

## Development of Simple Critical Viewing Skills Scale

後藤 康志

Yasushi GOTOH

新潟大学

Niigata University

本研究では、開発済みのCT技能尺度の簡易版となるカテゴリーシステムを作成した。大学生172名のデータに対する3名の現職教員による評定の一致度を検討した。一致係数、相関係数、一致度の検討から、簡易版CT技能尺度のカテゴリーシステムは評定者が異なっても高い一致度を示すことが示唆された。

ただし、方法については、「複数の信頼性の高い情報源を組みあわせる」といった場合に情報の内容を含むような記述となっていること、例示を増やすことなどが課題として示された。

<キーワード> メディア・リテラシー、批判的思考、尺度、自己評価

### 1. 背景

批判的思考（クリティカルシンキング、以下CT）は1930年代のアメリカの国語や社会科で注目され、グレーザーによれば「物事をじっくり考えようとする態度、論理的な探究や推論の方法に関する知識や論理的に推論する技能」を指す（Glaser,1941）。Beyer(1985)は、Dressel & Mayhew(1954)、Ennis(1962)など過去の主要なCTの定義を整理して「情報や主張の信憑性や正確さ、価値を決定する過程」とまとめている。Smith(1995)は「証拠を集め、代替案を慎重に評価して結論に達することにより、先入観を排除する、論理的で合理的な過程」がCTだと述べている。CTは我が国でいう論理的思考に近い概念である（井上1989）。欧米においてはCTのテストは多数存在するが、こうした経緯から論理的に妥当な判断を下す態度や技能を測定するものが多い。よく知られているWatson-Glaserのテストは、推論課題、演繹的推論課題、議論評価課題等で構成され、久原ら(1993)によ

って紹介されている。メディアからの情報を鵜呑みにせず、その真偽を検討する際にも、こうした論理的な思考を基盤としたCTは必要である。

インターネットの情報が正しいかどうかを確認するための決定的な方法はなく、バックinghamは匿名アクセスというインターネットの特徴による偽情報の流布の可能性や情報の信頼性を確保するための裏付け情報の必要性を子どもに教える必要性を強調する（Buckingham, 2003）。マスターマンはメディアからの情報を自分のイメージに偏った読み解きをせず、客観視することの必要性を挙げ（Masterman,1995）、クリストは批判的分析を身につけることを提唱する（Christ,1997）。こうした流れを汲むメディア・リテラシー実践では、テレビやコマーシャルを分析し、メディアが送り手の意図に基づいて構成されていることを知ることを重視する（鈴木,2000;Media Awareness Network,2008）。

筆者は、既存のCT尺度やEnnisらの見解

に加え、図書館情報学の知見を Web 情報評価に応用した尺度(Alexander & Tate,1999; 鷺見・四谷,2004)を参考に、新たな CT 測定尺度を開発した(後藤 2005,Gotoh2005)。尺度は Web に掲載されている情報の信頼性を確かめるために「どのような情報(内容)」を「どのような情報源(方法)」で収集したらよいか自由記述させ、15 のサブカテゴリーシステムを用いて

- ①情報源の信頼性を確認するための方法及び内容が指摘できない,
- ②情報源の信頼性を確認するための方法及び内容の何れかのみ指摘できる,
- ③情報源の信頼性を確認するための方法及び内容が指摘できる,
- ④情報源の信頼性を確認するために信頼性の高い情報源を複数組み合わせるなど、適切な方法及び内容が指摘できる

の4段階で判定するものがある。異なる評価者がこのカテゴリーシステムを用いて評価した場合、どの程度評価が一致するかを確認するため、後藤(2009)は現職教員 25 名に対して、小学生 28 名分に対して評価をもとめた。結果として、一致度の高いカテゴリーとそうでないカテゴリーが混在していることが示唆された。

このようなカテゴリーを教師だけではなく学習者自身が使用し、批判的思考技能を自己評価したり、自らの足りない点は何かを意識したりすることが求められるであろう。そのために、簡便な CT 技能尺度の開発が必要である。

## 2. 目的

簡易版批判的思考技能尺度のカテゴリーシステムについて、異なる評定者による評価の一致度を検討する。

## 3. 対象及び方法

### 3.1. 対象

#### ①学習者

N 大学「メディア論」受講生 172 名を対象とした。「メディア論」では地方紙と全国紙の比較、新聞とテレビの報道内容の比較、CM 分析、テレビ番組分析、Wikipedia と印刷メディアの比較などを取り扱い、2009 年 10 月から 2010 年 2 月まで 15 回の講義を行った。調査は 2010 年 2 月に実施した。

#### ②評価者

現職の小学校教諭 3 名が別別に評定した。調査は 2010 年 9 月に実施した。

### 3.2. 評価の一致度の検討

#### 3.2.1. CT 技能の測定

CT 技能の測定は Web 情報の信頼性を確認するために必要な情報と、その方法を具体的な場面(表 1)において自由記述してもらうことで行う。この課題文は、成人から小学生までの予備調査を実施し、自由記述の内容が安定的な傾向がみられた問題であり、小学生にも問題場面が直感的に把握できるように漫画形式に書き換え、吹き出しに書き込む形式に工夫したものである(後藤 2005a)。

表 1 課題文

アキコさんは、あるホームページでダイエット食品「ダイエット S」を見つけました。ホームページには、ある医学者の紹介文として「この食品はねだんが高いが、ダイエットの効果はある」と書いてありました。さらに実際にこの食品でダイエットに成功した 3 人の話ものっていました。

そこへ、ケンタさんがやってきて、この情報が信頼できるかどうか確かめる方法を教えてください。ケンタさんになったつもりで「必要だと思われる情報」や「調べ方」を考えられるだけ書いてください。

表 2 簡易版 CT 技能尺度カテゴリーシステム

	評価	カテゴリー	文例
内 容	4 点	記述は具体的で、情報源の信頼性を確認するための具体的な情報を含む。	医者の特長分野や業績、会社の以前の製品の評判など
	3 点	記述が具体的だが、情報源の信頼性を確認するための具体的な情報を含まない。	医師の詳しい情報、会社の詳しい情報など
	2 点	記述が曖昧で、質問の意図が明確ではない。2 点	医者について、会社について。
	1 点	記述できない 1 点	(なし)
方法	4	記述は具体的で、信頼できる複数の情報源の比較を含む。	信頼できるレビューサイトをいくつか比較する、公的機関や学会のサイトを確認するなど
	3	記述が具体的だが、複数の情報源の比較を含まない。	レビューサイトを確認するなど
	2	記述が曖昧で、方法選択の意図が明確ではない。	インターネット、本など
	1	記述できない 1 点	(なし)

### 3.2.2. 評定と一致度の検討

別別に評定した 3 人の教員の評定の一致度を、ケンドールの一致係数、評定者間の評定の相関係数、スコアの一致度により検討する。

また、評定を行った教員に対して、カテゴリーシステムについて改善点をあげてもらった。

## 4. 結果と考察

### 4.1. ケンドールの一致係数

ケンドールの一致係数を算出したところ、内容 W=.82,方法 W=.73 であり、三者の評定は高い一致度を示していることが示唆された。

### 4.2. 相関係数

表 3 は内容、表 4 は方法について、教員

の評定の相関を求めたものである。内容・方法とも 1%水準で有意な相関がみられた。内容に関する相関は.7 程度の強い相関であり、方法は.5 から.6 の中程度の相関が見られた。

表 3 内容の相関係数

	評定者 A	評定者 B	評定者 C
評定者 A	1	.752**	.729**
評定者 B		1	.768**
評定者 C			1

表 4 方法の相関係数

	評定者 A	評定者 B	評定者 C
評定者 A	1	.579**	.690**
評定者 B		1	.538**
評定者 C			1

#### 4.3. スコアの一致度の検討

3名の教師のスコアの差を算出し、一致度の指標とした。例えば、3人の教師の評定がそれぞれ1, 1, 1であれば一致度指標は0となる。3人の教師の評定がそれぞれ1, 1, 2であれば一致度指標は1となる。一致度指標の最大は6であり、1名の教師のスコアが4、他の二人の教師のスコアが1のようなときで、この逆の場合(1,4,4)の場合も同じである。結果として、内容では、完全一致は120件、1人のみ不一致は169件であった。方法では、完全一致は119件、1人のみ不一致は157件であった。内容、方法ともに完全一致したケースは113件、内容・方法とも1名または2名の教師が不一致の場合は163ケースであった。一致度分析の結果は、3人の学校教師のスコアの一致度は高いことを示している。相関分析と同じく、内容に比べ、方法の一致度はそれほど高くなかった。

#### 4.4. 評定者からのコメント

評定者より「内容・方法とも、具体的な例示があり、助かりました」「方法の基準が、内容面と重なる点もあるのかなと少し疑問に思いました」とのコメントを得た。

#### 5. まとめと今後の課題

本研究では、開発済みのCT技能尺度の簡易版となるカテゴリーシステムを作成した。一致係数、相関係数、一致度の検討から、簡易版CT技能尺度のカテゴリーシステムは評定者が異なっても高い一致度を示すことが示唆された。

ただし、方法については、「複数の信頼性の高い情報源を組みあわせる」といった場合に情報の内容を含むような記述となっていること、例示を増やすことなどが課題として示された。

簡易版CT技能尺度は学習者自身が自己評価することを想定しており、今後は小学生か

ら大学程度を対象として自己評定を行わせ、教員による評定との一致度を検討していきたい。

Ennis, R(1987) A Taxonomy of Critical Thinking Dispositions and Abilities .Teaching thinking skills: theory and practice. Edited by Joan Boykoff Baron, Robert J. Sternberg. Freeman.

後藤康志(2006) メディア・リテラシーの発達と構造に関する研究 新潟大学提出博士学位論文

後藤康志 (2005a) 子供のWeb情報に対する「批判的な見方」尺度の作成. 日本教育工学会第21回全国大会講演論文集:849-850

後藤康志 (2005b) 学習者のWeb情報に対する「批判的な見方」尺度の作成 教育メディア研究 11(2):39-45

Gotoh, Y(2005) A Study of Japanese Students' Critical Viewing Skills on Web Browsing, Paper Presented at British Educational Research Association, UK

文部科学省(2006) 初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について(案). 初等中等教育における教育の情報化に関する検討会.

山内祐平 (2003) デジタル社会のリテラシー. 「学びのコミュニティをデザインする」 岩波書店, 東京

謝辞: 本研究の一部は、日本学術振興会科学研究費(基盤研究(C))「メディア認知の意識化を組み入れた批判的思考育成プログラムの開発(研究代表者・後藤康志, 課題番号21500960)」により行われています。